

燦々

SANSAN
光り輝く



もぎたて市産直市開始に伴い対面販売を実施

JAとまこまい広域農業振興対策協議会開催
～1市4町の関係機関が集まり、情報共有を行う～

特集

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.281



編集・発行

〒059-1693
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-272241 FAX 0145-273941
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2

令和8年6月10日
ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomaikouiki.com
メールアドレス
info@ja-tomakomaikouiki.com

印刷
株式会社須田製版

JAバンク

令和8年6/8月～7/31金

夏の貯金

キャンペーン2026

組合員の方または新たに組合員加入いただける方

スーパー定期貯金

1口50万円以上(5年は100万円以上)の新規および増額(自動継続)

50万円以上の新規または増額

1年定期

0.65%

※2026年5月25日時点 店頭表示金利:0.400%

3年定期

50万円以上の新規または増額

0.80%

※2026年5月25日時点 店頭表示金利:0.600%

5年定期

100万円以上の新規または増額

1.00%

※2026年5月25日時点 店頭表示金利:0.700%

その他の注意事項

- 自動継続後の適用金利は、自動継続日における店頭表示金利となります。
- ATM・ネットバンクでのお預入れは対象外となります。
- お利息には20.315%(国税15.315%、地方税5%)の源泉分離課税が適用されます。(マル優を除く)
- やむを得ず中途解約された場合は、当JA所定の中途解約利率が適用されます。
- 組合員加入をお申込みいただける方は、当JA地区内に住所を有する個人または勤務先が当JA地区内の方となります。
- 組合員加入お申込に際しては、1口1,000円以上の出資金をお預かりいたします。

JAバンクご利用で

ドドーンとプレゼント!

抽選で2,000名に、全道JAの特産品がドドーンと当たる!

4/16 9/30 10/16 3/31

抽選で30名に

広域産農作物プレゼント

(お一人様1回限)

JAとまこまい広域

ホームページ <http://www.ja-tomakomaikouiki.com/>

苫小牧支所 ☎0144-84-5117

厚真支所 ☎0145-27-2241

白老支所 ☎0144-82-2266

早来支所 ☎0145-22-2525

追分支所 ☎0145-25-2525

穂別支所 ☎0145-45-2211

燦々

SANSAN
光り輝く

No.281 CONTENTS

- 01 特集 JAとまこまい広域
農業振興対策協議会開催
～1市4町の関係機関が集まり、
情報共有を行う～
- 03 カメラレポート
- 07 ・ 南瓜定植作業開始
・ 各地で田植え作業始まる
- 08 JAとまこまい広域
生産組織・組織代表者・事務局担当者名簿
- 09 ・ 理事会報告
・ ホクレン新採用職員の農協・農家学習
- 10 期待の農力 伊藤 剛史さん
- 11 ワンポイント農情情報
- 12 あぐり講座
- 13 JAからのお知らせ
- 14 ・ 水稻の奨励品種現地試験に向けた播種作業
・ 令和8年度 第1回早来地区廃プラ一括回収

裏表紙 夏の貯金キャンペーン2026



もぎたて市産直市で陳列される野菜



▲開催地挨拶をする白老町大塩英男町長



▲意見交換会で発言する厚真町宮坂尚市朗町長

県ごとに検査方法・対象が異なり、認識と実態の乖離が生産現場の不信感を招いている。関係機関には情報の透明性を高め、誰もが正しく制度理解をできる環境づくりを求めるとともに、現行のヨーネ病防疫対策実施要領について現場の実態に即した柔軟な対応を求める。関係機関が協力した対応することが重要である」と述べた。意見交換会の総評として戸田安彦道議会議員は農業生産現場にも影響を及ぼしているナフサ不足について触れ「国はどの種類のナフサが不足しているのか調査中である。優先順位をつけて対応することが考えられるため、農業関係機関が一丸となって要望を挙げることが課題解決の近道となる」と話し、同協議会を締めくくった。

▼開会挨拶をするJAとまこまい広域堀弘幸組合長



JAとまこまい広域 農業振興対策協議会開催 ～1市4町の関係機関が集まり、 情報共有を行う～

6月1日(月)、JAとまこまい広域は白老町の白老町総合保健福祉センター(いきいき4・6)で「農業振興対策協議会」を開催し、管内の1市4町の首長と関係機関より33名が参加した。同協議会は平成13年から管内の関係機関が集まり、各町の農業振興に関して、情報共有することを目的に毎年開催している。

開会にあたりJAとまこまい広域の堀弘幸代表理事組合長より、「昨年からは米価の上昇、プル乳価の改定、和牛素牛価格の回復基調など明るい兆しもあるが、中東情勢による肥料や飼料などの生産資材やエネルギー価格の高騰など不安要素も多い。各町の農業振興に関する情報共有を行い、この難局を乗り越えたい」とあいさつがあった。

胆振総合振興局からは高病原性鳥インフルエンザや第7期北海道農業・農村振興推進計画についてなどの農政概要報告、普及センターからは農作物の生育状況と作業の進捗状況について報告した。また、JA北海道中央会からは食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立や米・水田農業をめぐる情勢についてなどが示された。

各報告事項の終了後、各市町における話題と農業課題が提起された意見交換会では、鳥獣対策や担い手確保についてが共通課題として再認識されたほか、白老町の大塩英男町長は「ヨーネ病について、都道府

広域

いちご部会目慣らし会開催

活発な意見交換が行われる

JAとまこまい広域いちご部会は5月8日に厚真町上野選果場にていちごの目慣らし会を開催した。生産者らが集まり、いちごを統一した品質で出荷するために「出荷基準」などの確認を目的に毎年開催している。当会には生産者11名のほかに、普及センターと市場担当者（札幌みらい中央青果）が出席し、出荷と市況について説明を行った。



▲いちごを前に意見する様子



▲目慣らし会に参加した生産者たち

とあいさつした。
出荷説明会では普及センターの担当者より、「平年より晴れの日が多く、平均気温も高い。日照時間は平年並みか多くなっている。また、6月以降に収穫する作型はアブラムシ類、ハダニ類の防除に注意が必要である」と説明があった。
また、昨今の中東情勢の影響により、バックやフィルム等資材の在庫不足や価格高騰を懸念する声があがった。当会では生産者自ら意見しており、いちごの生産に真摯に取り組んでいる様子がうかがえた。

白老

令和8年度JAとまこまい広域白老苦小牧西部地区生産者講習会

講習を通して生産意欲向上につながる

4月20日（月）、白老支所はしらおい創造空間「蔵」で令和8年度JAとまこまい広域白老苦小牧西部地区生産者講習会を開催し、組合員や関係者ら18名が参加した。
ホクレン苫小牧支所酪農課の渡邊課長と森本係長を講師としてお招きし、「ホクレン南北北海道市場における市場動向」をテーマに講習が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。また、実際の事例紹介や質疑応答の時間も設けられ、課題解決につながる活発な意見交換が行われた。



▲講習を受ける参加者たち



▲交流会の様子

参加者からは、今後の素牛相場の予測についてや購買者に選ばれる生産者の条件について質問が寄せられ、今後の生産活動への意欲向上につながる有意義な講習となった。
同日18時半からは「白老牛の店いわさきおもてなし亭」にて、ホクレン酪農課の講師も含め27名の参加者が集まる交流会が開催され、和やかな雰囲気の中で参加者同士の交流が深まった。

白老

白老和牛生産改良組合

獣魂慰霊祭開催

5月18日（月）白老和牛生産改良組合は白老町真證寺にて獣魂慰霊祭を執り行った。当日は、生産者10名のほか、堀組合長、白老町など関係機関の参列者を含め17名が参列した。

この慰霊祭は、人間が生きていくための糧となり、尊い命を捧げてくれた家畜たちへ深い感謝と哀悼の意を表すため、毎年開催している。式典では、参列した



▲挨拶する中村組合長



▲獣魂慰霊祭の様子

生産者やJA関係者が順に祭壇へ進み、お香を薫じて静かに手を合わせた。開催にあたり白老和牛生産改良組合の中村組合長は挨拶で、「物価高騰の苦しい状況でも今日という日までやってこられたのは動物たちが命をささげて、私たちを支えてくれたおかげです。今も私たちの周りには厳しい風が吹きますが、こんな時だからこそ皆で力を合わせて協力しながら頑張っていきたいと思います」と決意を述べた。

早来

広域グリーンアスパラ部会 現地研修会及び出荷目慣らし会

生産者達が作業体系等を情報交換

JAとまこまい広域グリーンアスパラ部会は4月23日（木）、安平町にある竹葉淳部会長の圃場でグリーンアスパラの現地研修会を実施し、12名の部会員が参加した。

現地研修会では、胆振農業改良普及センターの担当職員が寒候期の積雪状況や今後の管理について「積雪が少なく、ほ場（露地）の土壌は乾燥傾向なことから株が弱りやすい。収穫を早めに切り上げ来年に向けた取り組みを行う」と話し、秋以降の管理やほ場の更新目安についても説明された。



▲現地研修会の様子



▲目慣らし会の様子

生産者達は、現地のほ場を見ながら施肥や作業体系について情報交換を行った後、場所を厚真町上野選果場へ移し、目慣らし会及び市場担当者（札幌みらい中央青果）との意見交換会を行った。目慣らし会では、3月27日に初選果を迎えてからの選果及び出荷状況について、施設担当者より説明され、良質で統一されたアスパラガスを出荷できるように、規格本数等の基準を確認し合った。

早来

早来学園5年生「米学習」
「どろんこになりながらも、
みんなで協力」

5月18日（月）、安平町立早来学園5年生の社会科授業の一環として、安平町早来新米の宮崎晃行さんの水田にて、田植え体験が行なわれた。
この取り組みは安平町ふるさと教育・学社融合推進事業の一環で、田植えから稲刈り、脱穀・精米など稲作の一連作業を4回に分けて学習する活動の第1回目となる。

田植えを始める前に、胆振農業改良普及センターの竹内専門普及員より安平町のお米ができるまでの作業体系を学び、宮崎さんより田植えの方法や田んぼに入る際の注意点などを教わった。



▲はじめての田植え

当日は気温10℃と低く、冷たい泥に足を取られながらも、どろんこになりながら頑張った児童たち。「冷たくて寒かったけど、やっていくと楽しかった。このあとお米がどうなっていくのか楽しみ」と達成感に満ち溢れた表情で話してくれた。



▲元気いっぱいな児童たち



▲元気いっぱいな児童たち

厚真

新採用職員研修
「初めての田植えで
農作業について学ぶ」

5月20日から21日にかけて、令和8年度新採用の厚真支所管農課所属福光颯汰職員（23歳）が厚真町豊丘地区の（株）のやすへの協力のもと、農作業研修を行った。

この農作業研修は入組して1年目から3年目までの職員を対象に農産・そ菜・畜産部門の農作業を体験し、生産現場を肌で感じ農業の理解促進を図ることに加え、社会経験を積み、組合員との交流の場を設けることを目的に実施されている。



▲苗を補充する福光颯汰職員

同研修では福光職員が田植え機に搭乗し苗の補充作業を行ったり、育苗マシンの軽トラックへの積み込み作業を行い農作業現場を体験した。田植え作業がはじめてだと言う福光職員は「初めてだったことや、慣れない作業だったこともあり、想像以上に大変だった。揺れる田植え機の上で苗を補充するのは思ったよりも体力が必要だった。そのような苦労があつておいしいお米ができていくことが知れてよかった」と話す。今回の研修で学んだことを日々の業務へ活かしたいと意気込んだ。



▲集中して作業を行う様子

追分

追分アサヒメロン初出荷・初競り
今年の販売目標
金額3億2百50万円



▲検査員によるチェックが行われる様子

春の陽気が感じられる5月13日。事前に5月7日の早期巡回を実施し、今年も安平町野菜共同集出荷場にて、安平町追分地区特産のアサヒメロンが初出荷を迎えた。
今年の初出荷となったのは、追分旭地区の安井さんと、追分美園地区の正村さんの2名の生産者。丹精込めて育てられたメロンが次々と集出荷場へ運び込まれ、今年は昨年より29ケース少ない、16ケースの初出荷となった。

初出荷を迎えた安井さんは、「春先から高温が続く、圃場が乾いて管理が大変な状況だったが、比較的順調に生育してくれた。初出荷ということもありプレッシャーもあったが、無事に今日を迎えることができ安心している」と話した。

また、正村さんは、「初めての加温栽培で、これまで経験したことのない作付けだったため苦労も多かった。生育途中ではメロンが割れてしまう心配もあったが、なんとか初出荷を迎えることができて安心している。4玉・5玉サイズまで大きく育ち、大玉傾向となったことにもほっとしている」と笑顔を見せた。

出荷同日、安平町野菜共同集出荷場では初出荷セレモニーが行われ、綺麗にネットが張られたアサヒメロンの関係者や報道陣へお披露目された。セレモニーでは、追分アサヒメロン組合の安井貴志

組合長が、「今年度の販売目標は、生産者25件と実践農場1組、栽培面積24・9ha、出荷数6万5百箱、販売金額3億2百50万円としている。この目標に向かい、生産者一丸となって安心・安全で美味しいアサヒメロンを消費者へ届けられるよう、関係機関の皆様のご協力をいただきながら出荷に努めていきたい」と挨拶し、セレモニー終了後には翌日の初競りに向けて共選作業が行われた。

翌14日、札幌みらい中央青果で行われた初競りでは、開始早々からアサヒメロンの周りに多くの市場関係者が集まり、アサヒメロンへの期待の高さがうかがえた。最高値は一箱50万円（秀品5玉入り）となり、昨年の30万円を大きく上回る高値での取引となった。

今回出荷された16箱合計で、およそ149万円（税込）となり、出荷数量は昨年を下回ったものの、品質の高さが評価され、幸先の良いスタートとなった。



▲市場関係者にお披露目されたアサヒメロン



▲初出荷された高品質なメロン



▲試食用にカットされたアサヒメロン



▲祝辞を述べる堀組合長



▲初競りで取引されたアサヒメロン

令和8年度 JAとまこまい広域 生産組織、組織代表者、事務局担当者名簿

組織名	役 職 名			地区名	組 織 名	役 職 名		
	会 長	副会長	事務局			会 長	副会長	事務局
広域米生産振興会	谷川 広一	高橋 清吾	小寺 裕則	早 来	米生産振興会早来支部	阿部 修一	川田 毅	戸坂 嘉伸
				追 分	追分米生産振興会	谷川 広一	菅原 修介	中泉 英男
				厚 真	米生産振興会厚真支部	高橋 清吾	岡嶋 修司	中村 清人
				穂 別	JAとまこまい広域米生産振興会穂別支部	星 正寛	宮崎 雄次	遠藤 拓
広域畑作連絡協議会	東 洋一	高田 弘幸 岩倉 啓一	上田 周志	安 平	麦生産振興会安平支部	小野寺 基	野尻 俊和	戸坂 嘉伸
				厚真・穂別	厚真町畑作振興会麦部会	東 洋一	渡部 大樹	早坂 祐哉
				早 来	豆類生産振興会早来支部	高田 弘幸	宮崎 晃行	文字 玲雄
				追 分	追分豆類生産振興会	岩倉 啓一	谷口 龍治	森江 和宏
				厚真・穂別	厚真町畑作振興会豆部会	海沼 孝太	堀田 英慎	早坂 祐哉
				早 来	てん菜生産振興会早来支部	大井 雅史	南 美彦	佐藤 雄二
				追 分	追分てん菜生産振興会	大久保 悟	牧野 浩明	森 竜也
				厚真・穂別	てん菜生産振興会厚真支部	大蔵 巧	渡部 大樹	井原 巧太
						竹田 大介		清水 和人
広域そ菜園芸連絡協議会	土屋 祐規	山崎 基憲 安井 貴志	横山 達也	早 来	インゲン部会	北海道21世紀村	出口 良助	清水 和人
				追 分	アサヒメロン組合	安井 貴志	宮内 康博	森山 拓
					カンロ組合	友広 博	鎌野 太地	森山 拓
				厚 真	ごぼう生産部会	大久保 悟	菅原 修介	森山 拓
					厚真町ハスカップ部会	山口 善紀	土居 元	近藤 隆貴
				穂 別	穂別営農振興会議	土屋 祐規	後藤 馨	窪田 剛士
					ほべつメロン生産部会	後藤 馨	土屋 祐規	近藤 克之
					むかわ町穂別馬鈴しょ原種生産組合	由布 龍哉		宮田 洋介
					穂別アスパラ部会	柴田 健志	中澤 浩	富士野 周平
					穂別カンロ生産部会	小林 朋導	中村 由美	吉野 智貴
					穂別長芋生産部会	土屋 祐規	由布 龍哉	窪田 剛士
					穂別葉菜栽培研究会	清川 正	菊地 英智	近藤 克之
広域南瓜生産部会	石崎 憲一	石井 幸秀	横山 達也	早 来	広域南瓜生産部会 早来支部	梅田 智之	小西 勇生	清水 和人
				厚 真	広域南瓜生産部会 厚真支部	石井 幸秀	小谷 一樹	横山 達也
				穂 別	広域南瓜生産部会 穂別支部	石崎 憲一	柴田 健志	富士野 周平
広域ほうれん草部会	竹葉 淳	角地 渉 上田 文夫	伊藤 賢治					
広域プロックリー部会	大垣 勇人	尾方 司朗	坂口 元					
広域馬鈴薯生産部会	山崎 基憲	小泉 貴裕	川原 拓也					
広域加工馬鈴薯部会	近藤 健一	海沼 孝太	川原 拓也					
広域グリーンアスパラ部会	竹葉 淳	柴田 健志	清水 和人					
広域花卉専門部会	桐木 洋光		伊藤 賢治	苫小牧	花卉生産組合	斉藤 謙吉	長井 和宏	
広域いちご部会	山川 克基	木村 光子	坂口 元	追 分	花卉生産部会	水橋 勉	富永 勝利	竹山 幸司
				厚 真	厚真町花卉部会	桐木 洋光	折坂 泰宏	伊藤 賢治
				安 平	安平町菜の花生産振興会	中道 幸夫	小西 克典	森江 和宏
広域畜産振興連絡協議会	富樫 瑛一朗	小松 浩 金川 航大	吉岡 淳					
広域酪農振興会	金川 航大	五十嵐 貴満	剣持 拓史					
広域和牛振興協議会	小松 浩	中村 俊太 浅野 美樹 鍋野 高志	松田 孝裕	白老・苫小牧	和牛生産改良組合	中村 俊太	大津 親禎	松田 孝裕
				安 平	和牛生産改良組合	鍋野 高志	田中 健太	平井 義樹
				厚 真	和牛生産改良組合	浅野 美樹	村田 尚洋	三浦 凌
				穂 別	和牛生産改良組合	小松 浩	東 洋一 中村 崇之	三浦 凌
広域和牛振興協議会担い手部会	福島 幸太朗	上村 将兵	新岡 駿斗					
広域養豚振興協議会	富樫 瑛一朗	清野 光弘	松田 孝裕					
もぎたて市部会	桐木 政三	反町 貴志 河村 美枝子	加藤 迅					
広域青年部	工藤 純輝	池田 晃司 宮内 逸己 石崎 真平	逢坂 聖慈	早来支部	広域理事 池田 晃司	西川 泰洋	小西 勇生	文字 玲雄
				追分支部	広域理事 宮内 逸己	橋本 祥彰	宮内 逸己	藤井 裕也
				厚真支部	広域理事 工藤 純輝	渡部 勇樹	米澤 隼 尾形 司朗	福光 颯汰
広域女性部	溝口 千晴	田代 敦子	且見 利奈	穂別支部	広域理事 石崎 真平	石崎 大知	星 郁人	宮田 洋介
				白老支部	広域理事 吉田 亜須香	中村 利香	阿部 衣里	本間 登美子
				苫小牧支部	広域理事 溝口 千晴	溝口 千晴	野村 真理子	中塚 健太
				早来支部	広域理事 門田 千夏	内藤 圭子	小西 久仁子	川原 梨沙 三谷 葵
				追分支部	広域理事 長谷川 聖子	谷口 麻弥	林出 絢子	藤井 裕也
				厚真支部	広域理事 秋永 晴美	土居 琴恵	猪師 恵	島田 和樹
				穂別支部	広域理事 田代 敦子	宮崎 晴美	石崎 代里子 中澤 珠美	大頭 歩実

南瓜定植作業開始
早期出荷をすることで有利販売につなげたい

5月6日より、むかわ町穂別地区の主要農産物である「南瓜」の定植作業が本格的にスタート。

JAとまこまい広域南瓜生産部会穂別支部（石崎憲一支部長）では、生産者60戸、作付面積約310ha、生産量4,270t、販売高520,000千円を計画している。

この時期に定植された南瓜は霜の被害を軽減するためにトンネル栽培を行っており、早期に出荷をすることができるため、有利販売につながるメリットがある。7月下旬には収穫時期を迎え、8月上旬より出荷される予定だ。

生産者の森山幸治さん（58歳）は「晴れた日が多かったが、夜は寒かったため、苗は若干小さいと感じた。畑の準備が整ったので、去年より2日早く定植を始めたが、順調に進んでいる。5月中も夜温が低くなる日があるため、気を緩めないように作業に臨みたい」と話す。



▲定植された南瓜の苗



▲作業の様子



▲トンネルが掛けられた圃場

【厚真・穂別】
各地で田植え作業始まる ～豊穣の秋を願って～

JAとまこまい広域管内の厚真町東和地区の畑嶋宏謙さん（34歳）が昨年より2日早く5月7日に8年産米の田植えを開始した。

畑嶋さんは「日照時間が多かったこともあり、苗が順調に育ってくれた。風の強い日が多く心配もあったが無事田植えを始められ安心した」と話した。田植え初日は奥さんの佳奈さんと子供たちも手伝いをしており、家族一丸となって作業を行っていた。今年の作付けは「ななつぼし」「ゆめぴりか」「えみま



▲石崎浩一さんの息子
大知さん(33歳)



▲大頭克幸さん



▲先陣を切って田植えをスタートした
畑嶋宏謙さん



▲苗を田植え機に補充する様子

る」の三品種。作付面積は約40haあり、2週間ほどで田植えを終える見込みだ。

一方同JA管内むかわ町では5月14日に穂別の石崎浩一さん（64歳）、大頭克幸さん（43歳）、清川伊代さん（44歳）、紀藤康宏さん（42歳）らが田植え作業をスタートした。

当JA管内の田植え作業は5月下旬にピークを迎え6月上旬ごろにはすべての作付けが終了する予定である。

さんさんかがや 期待の農力



妻の両親が作る メロンの味に感動した



いとう 剛史さん(33歳) むかわ町穂別

就農のきっかけ

家族と自由に過ごせる仕事を探していた時に、妻の両親が作るメロンの味に感動した事を思い出し、いつか自分でも作ってみたい」と考えるようになり、選手を引退後、佐藤農園に就農することを決意した。

剛史さんは、中央大学を卒業後、栃木県日光市でアイスホッケー選手として活躍し、令和4年に奥さんの麻美さんの実家である佐藤裕次さんの農園に就農を果たす。就農してから今年で4年目となり、現在は奥さんと娘の紗来ちゃん、望央ちゃんの4人で実家近くに暮らし、義両親と協力して農業を営んでいる。

実際に就農して

佐藤農園では、水稲4.3ha、南瓜2ha、メロン1.500mを作付けしている。「まだまだ経験が浅いため、苦労することが多いけど、家族と過ごせる時間が前より増えたことや、よりよい作物を作りたいと思うことで、頑張ることができそうです」と話してくれた。

青年部について

就農してすぐに青年部に入部、今年から役員の一員として、活動に参加する。剛史さんは「地域の方と早く仲良くなれたのは、青年部活動のおかげだと思います。農業について、まだわからない部分があるため、アドバイスを求めることが多いと思いますが、よろしくお願いします」と笑顔で話してくれた。

今後の目標

「しっかりと勉強して、経営の全体を把握できるようにすることが直近の目標です。代々受け継がれてきた農業を守り、発展させていけるように、関係機関や地域の方との情報交換を積極的に行い、チャレンジしていきたいです」と思いを語る。

理事会報告

令和8年3月17日(火)に総合営農センター1号室で第3回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。

報告事項

1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 2月末財務報告について
3. 組合員の異動について
4. 監事の選任議案に対する同意に関する同意書について
5. 会計監査人の再選任について
6. 会計監査人の報酬等に関する同意書について
7. 決算監事監査報告について
8. 令和7年度事業の監査報告書について
9. 令和8年度監事監査方針と監事監査計画について
10. みのり監査法人の監査報告書について
11. 組合として対処し解決すべき重要な課題及びそれへの対応方針について
12. 令和7年度農産物調製の結果について
13. 令和7年度JAとまこまい広域共励会の選考結果について
14. 食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立に関する組織討議について
15. 第25回職員研修大会の開催について
16. 厚真町農業委員の推薦について

協議事項

1. 組合員との対話運動について
2. 春期組合員懇談会資料について

付議事項

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------|
| 議案第1号 令和7年度決算関係書類について | 議案第6号 令和8年度農業振興基金の事業メニューについて |
| 議案第2号 総代会に係わる議決権行使書面の内容について | 議案第7号 農事組合法人・白老牛改良センターに係る出資持分払戻請求について |
| 議案第3号 役員賠償責任保険契約の締結について | 議案第8号 出資の減口と譲渡について |
| 議案第4号 理事に対するクミカン供給の承認について | |
| 議案第5号 役員との利益相反取引の開示内容について | |

【広域】 ホクレン新採用職員の農協・農家実習 ～実習を通して生きた知識を得る～

JAとまこまい広域はホクレンの令和8年度新採用職員研修として、阿部真輝(あべまさき)さんと平田倅也(ひらたこうや)さん、2名の農協実習と農家現場での実習を受け入れた。

この実習はホクレンが求める人材を育てるための能力開発研修の一環として、入会後に行われる。新採用となった職員が北海道各地の農協で約3週間の実習を行い、農協や農家実習の現場での体験を通して生きた知識を習得する。

7日に研修を始め、企画管理部から当JAの概要について学び、実際に厚真町上野の農産施設の見学を行い、農協業務について知識を深めた。11日から15日にかけて農作業実習に入り、メロンのわき芽とりや水田のごみ取り作業、馬鈴薯の播種作業に携わり、実際に農作業を体験。実習を通して、「初めての作業で大変だったが、貴重な体験をできてよかった。2人で行っても体力が必要な



農産施設の説明を聞くホクレン職員



厚真町の圃場を見渡すホクレン職員たち

作業を毎日のように行っている農家さんはすごいと思った」と2人は語る。また、今回の研修で学んだことを活かしてこれからの業務に臨みたいと意気込んだ。札幌で別の研修を受けたのち、それぞれの配属先へ向かう。

今回、生産者を含めご対応いただいた皆様におかれましては、大変お忙しい時期に誠にありがとうございました。

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

地力が低い水田は追肥で 収量が伸びます

JA とまこまい広域管内の水田は地力が低く、肥料持ちが悪いため、秋落ちする水田が散見されます（初期生育が良くても収量が少ない水田）。R6～7年にかけて計22ほ場で試験を行った結果、**幼穂形成期5日前頃に尿素を4.35kg/10a（窒素成分で2kg）追肥**することで、収量が平均35kg/10a 増加しました（図1）。

倒伏リスクを下げるためには、追肥時期と全層施肥の窒素量がポイントになります。追肥時期を幼穂形成期前にすることで稈長の伸びを抑えることができます（図2）。

表1の条件で実施することで、倒伏リスクを下げつつ、増収が見込めます。

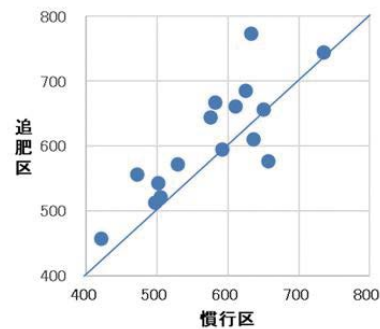


図1 R6収量の比較
※斜線より左上に点があれば追肥区は慣行区より収量が高い

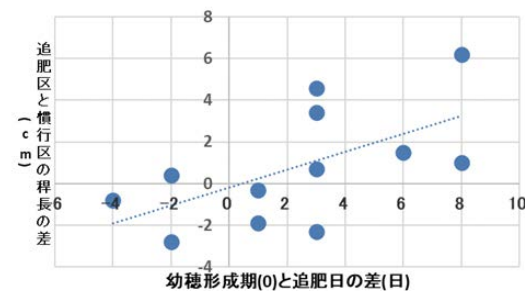


図2 R7追肥時期と稈長の伸び
※横軸の0は幼形期の日を示し、左が幼形期前の追肥で右が幼形期後の追肥

表1 追肥の目安

品種	ななつぼし
窒素肥沃度	低い
全層窒素施肥量	4.5kg/10a以下
追肥時期	幼穂形成期5日前
追肥窒素量	2.0kg/10a(尿素4.35kg/10a)

※窒素肥沃度はJAの土壌分析で把握できます
※側条施肥の窒素量は3.5～4.2kg/10a
※生育は2日程遅れます

追肥のやり方は？ ～水口からの流し込みで簡単に実施できます～

- 1 処理前の水深3cm 程度で止め水（ほ場の乾燥力所を無くすため）
 - 2 水口に尿素を写真1のように種籾袋などに入れて設置し勢いよく入水（あらかじめ水に溶かしたものをタンクから流すの可）
 - 3 水深が+5cm になるまで入水が続ける
 - 4 3日間程度止め水
- ※漏水が激しいほ場や均平が崩れすぎているほ場は×
※水口が複数ある場合は、全ての水口に尿素を分けて設置する



写真1 追肥の様子



↑ 追肥の様子（動画）

不明な点がありましたら、普及センターまたはJAまでご連絡をお願いします

ワンポイント営農情報

有機物資材の施用は、緑肥も効果的

緑肥栽培

緑肥は、地力維持・向上などに加え、雑草繁茂の防止、有害センチュウ類の密度低減などの効果が期待できます。特に、休閑ほ場や小麦収穫後ほ場での活用をおすすめします。

緑肥の効果

作物名	科名	効果									
		有機物供給	窒素効果	物理性改善	透水性改善	キタゲサレセン	キタコセンチュウ	菌根菌	病害	雑草抑制	土壌浸食防止
えん麦	イネ科	◎	○	○		×	◎	○	注2	○	○
えん麦野生種	イネ科	◎	○	○		◎	◎	○	注2	○	○
ヘアリーベッチ	マメ科		◎			×	×	◎		◎	○
シロカラシ	アブラナ科	○	○	○		×	×		注2	○	○
ひまわり	キク科	◎		◎	○	×	×	◎	注2	○	◎

注1 ◎：非常に効果がある、○：効果がある、×：線虫を増やす。

注2 えん麦はジャガイモそうか病に効果がある。えん麦野生種はジャガイモそうか病、小豆落葉病に効果がある。シロカラシはジャガイモそうか病、根こぶ病を助長する。

ひまわりは半身萎凋病の発生を助長する恐れがある（抵抗性品種の作付けが望ましい）。

注3 雑草抑制効果は十分な生育量が前提となる。

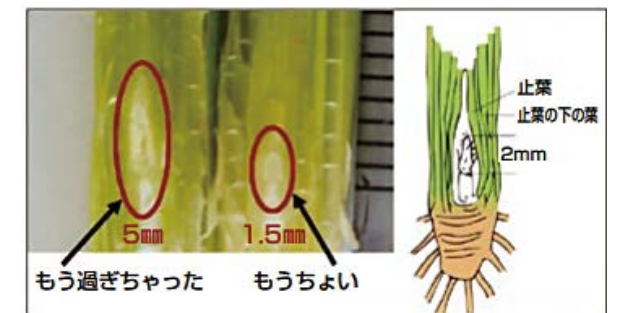
注4 品種の詳細な特性等は種苗会社のカタログ等を参照する。

【出典】「北海道緑肥作物等栽培利用指針（改訂版）」（2004年、道農政部、一部変更）

シリーズNo.66 おいしい米づくり

～登熟歩留りの良い稲に仕上げるため幼穂形成期の確認で適期管理を～

稲の生長点が、葉っぱをつくるのをやめ、穂を形成し始める時期が幼穂形成期です。穂や籾の生育に併せて、適正な管理を行うことにより、生産性を高め品質向上にもつながります。また、近年の高温対策の判断にも重要な時期となります。



【幼穂形成期以降の生育日数の目安】

幼穂形成期～止葉期	18日程度
幼穂形成期～出穂・開花	25日程度
出穂・開花～収穫	45～50日程度

幼穂形成期の確認		止葉期耳間長の確認 （-5cm～+5cm）		出穂の確認	
水田の水深	20cm 10cm 5cm				
幼形期後日数	幼形	5日目	10日目	13日目	16日目
生育段階	穂や籾が出来、花粉の基となる細胞も動き出す		花粉細胞が増え、肥大を続け花粉へと変っていく		薬の中で花粉の充実が進む
低温の影響	花粉の基の減少		花粉の退化・生育不良		出穂や開花の遅れ
水管理と効果	前歴期間 耐冷性を強くする 徐々に水深10cm 止水で日中の水温確保を優先する		冷害危険期 花粉能力低下による不稔を防止 徐々に止水出来る最大水深とする（目標18～20cm）		出穂までの中干し 登熟中の根の活力を向上 出穂始からの湛水 開花受精環境を整える

図 幼穂形成期からの水管理のポイント

水稻の奨励品種現地試験に向けた播種作業

厚真町で4月27日、水稻奨励品種現地試験にむけた播種作業が行われた。この試験は毎年、同町宇隆地区にある石橋公昭さんの圃場に委託設置された試験水田で行われる。当日は作業舎で関係機関も含め10名が参加した。

作業内容は育苗マットに播種、覆土し、育苗ハウスに並べるといった手順で行われ、約1時間で作業が終了した。



▲育苗マットに播種する様子



▲育苗マットに覆土する様子

この試験は、栽培のしやすさ、収量、病害虫の耐性などを確認するために全道各地域の農業改良普及センターが担当して行っている。今年は「上育485号」「ふっくりんこ」「ななつぼし」の三品種が播種され、5月上旬には水田に移植する予定である。

令和8年度 第1回早来地区廃プラ一括回収 ～農業用廃プラスチックを適正に処理～

安平町早来農業用廃プラスチック適正処理対策協議会は5月20日(水)、廃プラ一括回収を安平町遠浅で行った。

早来地区では年3回の一括回収を行っており、今回はその1回目である。今回の回収では47戸から、農業用ビニール・農業用ポリで23,615kgを回収し、昨年より2,350kg多い回収となった。

廃プラスチックの不法投棄、野焼きは廃棄物の処理及び清掃に関する法律第十六条の二において禁止されており、違反すると5年以下の懲役、若しくは1,000万円以下の罰金または、その両方が科せられる。なお、法人の場合は3億円以下の罰金が科せられる。また、環境汚染にも繋がるため、農業者の方々には適正処理への意識と関心をさらに高めて頂きたい。

翌21日、北斗市にある日本公防株式会社が回収し、トレーラー4台で運搬した。

安平町早来農業用廃プラスチック適正処理対策協議会での廃プラ一括回収は、7月中旬に2回目の回収、11月中旬に3回目の回収を予定している。



▲回収している様子

JA 日誌

2026 6月

16日(火)	第5回企画会議 JA日胆地区女性部長研修 年金友の会厚真支所 パークゴルフ大会
17日(水)	共済一斉推進(厚真地区)出陣式
18日(木)	(株)いなげや・全農青果センター産地訪問 ブロッコリー産地協議会 北海道花き生産出荷推進会議 花販売 ～19日
19日(金)	第5回経営会議
20日(土)	
21日(日)	
22日(月)	胆振生産連総会 第1回広域女性部役員会
23日(火)	Mizkan産地訪問 JA系統連合会総会 ～24日
24日(水)	厚生連第3回理事会
25日(木)	日胆地区乳質改善協議会(苦小牧)
26日(金)	JICA研修協力
27日(土)	第54回あつま田舎祭り ～28日 JA胆振野球大会
28日(日)	第47回豊稔祈願祭
29日(月)	事業所診断 施設再編検討委員会視察研修(JA北そらち)
30日(火)	退職辞令交付 課長・係長研修

2026 7月

1日(水)	試用期間解除辞令交付 東北・北海道地区総代会(仙台) ～2日
2日(木)	2026JAとまこまい広域ホルスタインショウ 組合長会議・各作物別合同会議
3日(金)	
4日(土)	あびら夏うまかつり ～5日
5日(日)	
6日(月)	第2回道酪対(札幌)
7日(火)	4地区組合長会海外研修(オランダ・ベルギー) ～15日 みのり監査期中!監査 ～10日
8日(水)	ホクレン肉牛市場
9日(木)	4地区監事研修(札幌)
10日(金)	ホクレン肉牛市場乳牛市場
11日(土)	
12日(日)	
13日(月)	新任監事(1年目)研修 ～15日
14日(火)	
15日(水)	年金友の会連絡協議会一泊旅行(旭川方面) ～16日

北海道信用事業優績JA【総合表彰】

4月23日にJAとまこまい広域の厚真町本所において、令和7年度「北海道信用事業優績JA」の表彰式が執り行われ、「北海道信用事業優績JA表彰 総合表彰JA」として表彰状と副賞が授与された。

同表彰は「北海道信用事業優績JA表彰選定基準」における6つの重点推進項目において、優秀な成績を収めたJAに贈られるもので、6つの部門別表彰と各部門を包括した総合表彰がある。当JAの総合順位は10位で、「JAバンクローン部門」ではポイントランキング2位(総合表彰受賞JAを含めて)であった。



ASC北海道試合スケジュール

- 6/21 北海道十勝スカイアース 10:00
第49回北海道サッカーリーグ2026 第5節
浜厚真野原公園サッカー場
- 6/28 札幌蹴球団 10:30
第49回北海道サッカーリーグ2026 第6節
浜厚真野原公園サッカー場
- 7/12 sabas 10:00
第49回北海道サッカーリーグ2026 第7節
札幌市白旗山球技場Aグラウンド

お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年
5/5	厚真町	山岸幸太郎さん	94
5/5	むかわ町	梅藤 和男さん	92

ホクレン南北海道黒毛和種市場 広域農協支所別取引成績(6月)

令和8年5月13日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白老	去勢	39	791,846	1.215	2,237
	雌	9	743,333	1.104	2,188
早来	去勢	32	813,969	1.219	2,241
	雌	23	733,217	1.080	2,197
厚真	去勢	15	806,533	1.224	2,286
	雌	12	685,167	1.043	2,157
穂別	去勢	22	803,273	1.159	2,382
	雌	26	714,192	1.040	2,233
追分	去勢	11	793,909	1.172	2,286
	雌	2	738,500	1.063	2,238
とまこまい広	去勢	119	801,950	1.203	2,275
	雌	72	719,750	1.062	2,203
胆振管内	去勢	215	807,535	1.199	2,295
	雌	136	717,360	1.062	2,201
市場計	去勢	1,010	787,063	1.172	2,292
	雌	656	692,579	1.035	2,199